

行 事 名 称	第116回技術者倫理研究会 例会
開 催 日 時	2025年3月11日（火曜日）18:30～20:30
開 催 場 所	Web中継、各地域本部等
主 催	公益社団法人日本技術士会登録 技術者倫理研究会 <a href="https://engineeringethics-studygroup.jp/">engineeringethics-studygroup</a>
参 加 者	全国で106名参加（うち北陸本部参加者15名）
演 題	プロトタイプ 技術者倫理の学びカタ
講 師	川本 明人氏 技術士（金属部門）
講 演 資 料	あり
内 容	<p>不確実な現代社会。社会生活を営む中、想定外の災厄あるいは倫理的問題に遭遇し、躓くものである。日頃から倫理と寛容さ（思いやり）を正しく学び、行動できるように努めたいものである。倫理の学びは退屈であるが、役に立つ。</p> <p>本講演では、技術士倫理綱領の責務の一つ「継続研鑽と人材育成」の観点から、高等教育機関における倫理教育から学んだ（思索した）技術者倫理の学びカタ（経験知、方策および思考法など）を紹介する。</p> <p>利活用するトピック（題材）は、技術者倫理の学習書で取り上げられている伝統的な教材ではなく、最近の事件・不祥事を題材に、参加者の新しい学習の手がかりや気づきが得られるよう努める。</p>
所 感	<p>最初に伝えたいこととして、結論からお話があり、「倫理はモラルの意識から生まれ、倫理的問題に直面する前にその意識に気づくことが重要。しかし、状況によっては思いやりや寛容さも必要。倫理問題に正解はなく、最善解を模索するには信頼できる仲間と対話し、協働学習することが望ましい。不正防止には倫理的視点だけでなく、ELSIやステークホルダーの視点も不可欠。倫理の実践にはエンジニアリング・デザインが有用であり、自身の倫理観の脆弱さを自覚しつつ研鑽を続けることが大切である。」とのこと。講演について、幅広い内容で興味深く大変考えさせられた。</p>
記入者：2025. 3. 13 倫理委員会 阿部治彦	